

平成27年度 全国家庭教育支援研究協議会 平成28年1月29日

訪問型アウトリーチ支援で 保護者・子どもをエンパワメント！



泉大津市教育支援センター
家庭教育支援チーム
(スマイルサポートチーム)

泉大津市教育委員会

支援チーム発足の背景

訪問型支援チームの派遣方法

家庭教育支援チームの特徴

26年度の活動実績と効果

訪問型アウトリーチ支援以外の活動

26年・27年の新たな取組み

こどもサポートネットワークシステムの構築

訪問型「泉大津市家庭教育支援チーム」 発足の背景

泉大津市（データ）

面積：約13平方km

東西：約5.4km 南北：約5.5km

人口：約76,000人（H27.11.1）

幼稚園：6園 認定こども園：2園

小学校：8校 中学校：3校

日本有数の毛布の生産地



海外生産で衰退



住宅地

背景①

繊維業の衰退により工場跡地が住宅地になる



他地域からの住民の大量流入



人間関係の希薄化によって、地域で家庭が孤立



子育てやしつけに悩みや不安を抱える保護者の増加
(虐待・不登校・非行・発達障がい・家庭内暴力等)

背景②

家庭教育の重要性の認識が低い保護者や
生活に追われ余裕のない保護者の増加



来てほしい保護者は来ない・これない



学校での相談・来所型の教育相談・子育て研修
会等に参加できない保護者の増加

背景③

保護者と学校（教員）とのつながりがより必要



関係が悪化し、学校（教員）とのつながりがなくなる



学校（教員）だけによる家庭支援の限界

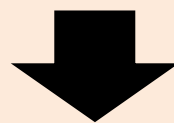


教員・教育委員会でない人材のサポートが必要

子育てやしつけに悩みや不安を抱える保護者の増加
(虐待・不登校・非行・発達障がい・家庭内暴力等)

学校での相談・来所型の教育相談・子育て研修会等に参加できない保護者の増加

教員・教育委員会でない人材のサポートが必要



第三者による訪問型アウトリーチ支援

家庭教育支援チームの派遣方法

学校・福祉部からの派遣依頼

- 要対協やCSWと連携

指導課・教育支援センター

- 派遣の検討
- 派遣の決定

チームリーダーに派遣要請

- ケースに適した人選

サポーター参加のケース会議

- アセスメント
- 役割連携確認
- プランニング

訪問型アウトリーチ支援スタート

泉大津市家庭教育支援チームの特徴 (スマイルサポートチーム)

チームの特徴

- ① 第三者である
(※教員や教育委員会・市職員ではない)
- ② カウンセリング講習を受講している
- ③ 子育て世代又は子育て経験者である
- ④ 教職員では支援の困難な保護者や子どもに会える時間を優先した訪問ができる

訪問支援のポイント

- ① 訪問前の多面的な情報交換
(ケース会議で確かなアセスメント)
- ② 保護者が元気になるように
(保護者をエンパワメント)
- ③ 訪問時にはお土産を忘れずに
(子どもの良い情報・頑張り等)
- ④ 不平・不満・悪口は学校に伝えない
- ⑤ 離れ際が肝心 (保護者を依存させない)

保護者が元気になると

子どもが落ち着きを取り戻し、学校で安定した生活をすごせるようになる

- 不登校児童生徒の学校復帰ができる
- 問題行動が減少する

学校（先生）等との関係がよりよくなる

- 家庭と学校（先生）がよりつながる

平成26年度家庭教育支援チーム活動実績

- ①支援家庭数 18家庭
- ②面談家庭数 5家庭（面談のみ）

平成25年度
300回



平成26年度
558回

家庭支援家庭した長期欠席児童生徒に
改善のあった割合

- 訪問支援した家庭の児童生徒数 23人
- 教室復帰人数 6人
- 校内適応指導教室入室人数 1人
- 教育支援センター適応教室入室人数 3人



改善のあった人数 10人



$$10/23 \times 100 = 43.5\%$$

訪問型アウトリーチ支援以外の活動

サポート会議

- 月1回
- 情報交換
(支援方法・兄弟姉妹)
- ケース検討
- スキルアップ研修

親の会

- 月1回
- 情報交換
- 悩みの共有
- 一緒に考える
(サポーター参加)

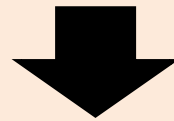
子育てワークショップ

- 月1回
- 月毎のテーマ
- チームリーダー
ファシリテート
- とともに学ぶ



平成26年度の取組み①

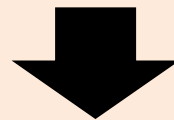
発達障がいのある保護者・こどもへの対応スキル不足



発達障がいの専門家によるサポーター研修

平成26年度の取組み②

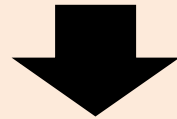
家庭教育支援チームと・教育相談窓口の連携強化



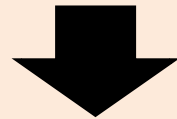
家庭教育支援チーム・専門相談員の連絡会

平成27年度の取組み①（進展）

家庭教育支援チームと要対協対協・福祉部の連携不足



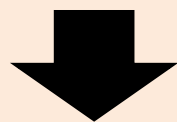
支援チームと要対協事務局との連絡会



- ・サポーター会議(毎月)に基幹型CSWの参加
- ・要対協ケース会議、校内ケース会議へのサポーターの参加

平成27年度の取組み②（進行中）

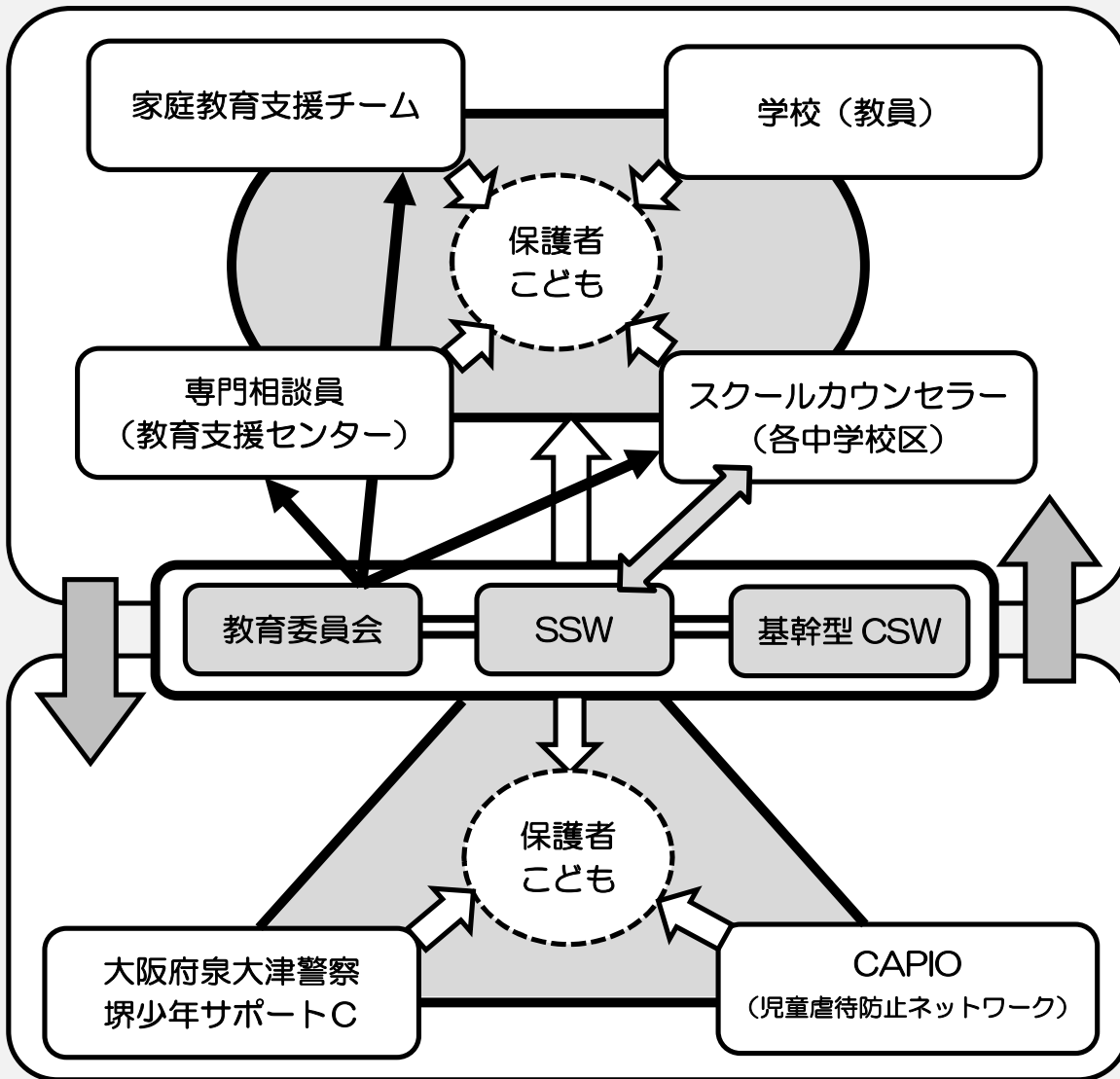
SC・SSW・CSW・専門相談員・サポーターとの連携



- ・連絡会の設置や情報共有システムの構築
- ・SSWと基幹型CSWの連携システムの構築

こどもサポートネットワークシステム（素案）

泉大津市こども支援ネットワーク



泉大津市専門相談員・SC・SSW・基幹型CSW・家庭教育支援サポーター・連携会議

泉大津市いじめ対策地域協議会（H25～）

協働する関係諸機関・組織

岸和田子ども家庭C

泉大津市要保護児童地域対策協議会

泉大津市保護司会

泉大津市更生保護女性会

泉大津市BBS会

泉大津市小中学校生徒指導連絡協議会

リーフレット（26年作成）

おうちの方を笑顔に!!

～泉大津市家庭教育支援チーム～
「スマイルサポートチーム」

問い合わせ「泉大津市教育委員会 指導課」
TEL : 0725-33-8242
FAX : 0725-33-0670

泉大津の子どもたちの成長を見守る方へ

泉大津市家庭教育支援チーム「スマイルサポートチーム」は

- おうちの方からじっくりお話を聞きます。
- おうちの方に元気を取り戻してもらいます。
- おうちの方を笑顔にします。

そして・・・

- ◎子どもが元気になります。

・・・泉大津市家庭教育支援チーム・・・
「スマイルサポートチーム」

・・・こういうメンバーで活動しています！・・・

（チームリーダー） 岸藤 万穂子 / 日本プロカウンセリング協会泉大津校 代表
（支援サポーター） 下島（H27年3月新卒） / 日本プロカウンセリング協会講師兼講師者

・・・こういう立場で活動しています！（チームの特徴）・・・

- ① 第三者である
- ② カウンセリング講習を受講している
- ③ 子育て世代又は子育て経験者である
- ④ 保護者や子どもに欠ける機能を補完します

・・・こういう家庭へ訪問支援を行います！・・・

家庭に課題を抱え支援が必要であるが、まわりから孤立している家庭へ訪問します。

- 学校等と高い関係が保たれず、学校等による制約が行き届いていない家庭
- 生活に支障が少なく、家庭内での課題性の認識が低い家庭
- 家庭が孤立して孤立し、子育てやしつけに悩みや不安を抱える家庭
- 学校等での相談・個別型の教育相談・子育て研修高等に参加できない家庭

・・・こういう成果をめざします！・・・

課題を解消する家庭を創出します！（おうちの力をエンパワーメント！）

- おうちの方のお話を傾聴して、本音を引出しします。
- おうちの方のしんどさに寄り添い、問題解決に向けて動きます。
- おうちの方に笑顔を取り戻してもらいます。

↓

- ◎子どもが笑顔のいい環境を取り戻し、学校で定着した地帯を築けるようになる。
（不登校児童生徒の学校復帰や出席行動等の改善）
- ◎学校（先生）等との関係が修復する。
（家庭と学校等のつながりの改善）

チームの派遣方法

```

    graph LR
      A[学校等からの派遣依頼] --> B[指導課  
教育支援センター  
派遣検討  
派遣決定]
      B --> C[サポーターの学校等での  
ケース会議参加  
アセスメント、支援プランニング  
関係機関の役割分担・連携]
      C <--> D[支援開始  
経過評価]
  
```



泉大津市教育委員会